

CASE STUDY 02：活用コンセプト案



School of Craft

世代をつなぐ、ものづくり学校

～生野のものづくりを、暮らしながら学び、自分でものを作れる拠点～

25

CASE STUDY 01：活用コンセプト案



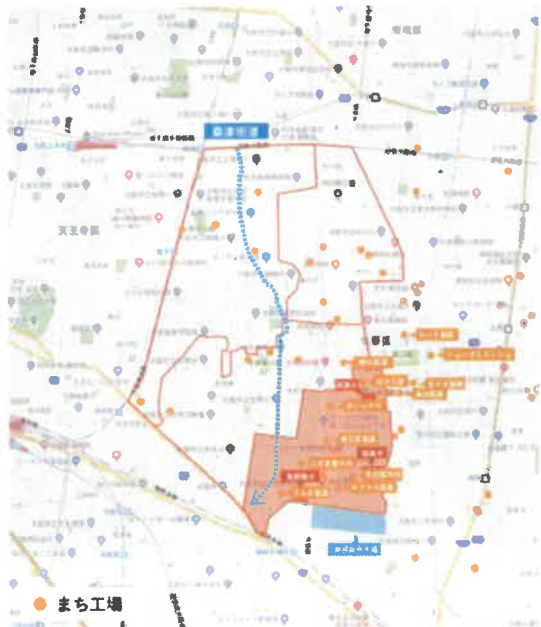
生野のものづくり精神を学べるまち

生野のものづくりが集積する強みを活かす
ものづくりの精神を学び、新たなものづくり産業形成を目指すエリア

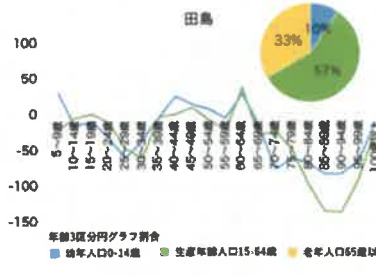
26

CASE STUDY 02 : エリアの強み

まち工場が多数集積



人口の流入が少ない



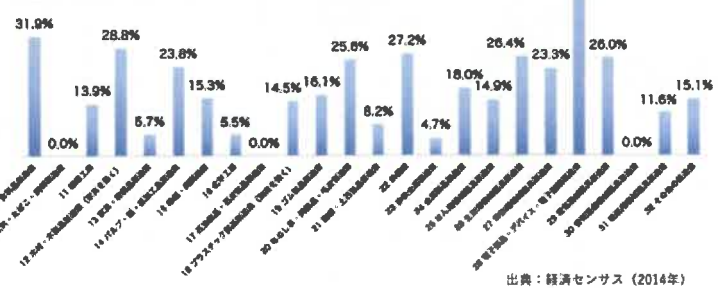
町工場



メガネレンズ産地の地であることが記された石碑

ものづくりのまち・製造業が多いエリア

製造業における、区内での田島中学校区の従業員数の割合



27

CASE STUDY 02 : 活用内容

世代をつなぐ、ものづくり学校

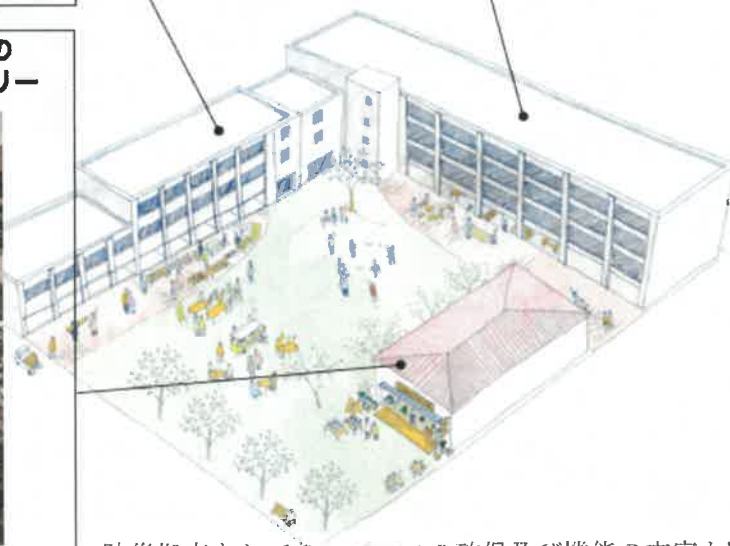
クラフト好きのための賃貸住宅



クラフト系ショップやコワーキング



体育館をガーデニング特化のホームセンターやファクトリー



※ 防災拠点としてのスペースの確保及び機能の充実も図る

CASE STUDY 02 : 活用ステップ案とターゲットイメージ

コンセプトの発信

協力者・利用者を集める

施設オープン

周辺エリアとの連携

Step. 1 当事者を集める

コンセプトの発信

運営者候補

- ・地元のクラフト系企業による
DIYスクール+店舗運営
- ・スクールは小・中学生も対象
→ものづくりを学べる「学校」

運営協力者候補

- ・町工場のスキルある職人
- ・周辺のスキルある高齢者
→地域の高齢者の社会参画

核となるショップ出店者候補

- ・地域内外のDIY関連のアーティスト
- ・地域内外のクラフト系ショップ

Step. 2 協力者・利用者を増やす

参画の機会を提供する

施設の顧客ターゲット

- ・駅前の30代新興ファミリー
- ・ガーデニング好きな周辺高齢者
- ・地域内外のDIYファン

コワーキング入居者

- ・DIY好きの周辺住人
- ・地域内外のDIY関連のデザイナー
- ・周辺のヤル気あるママさん起業家

(小規模) ショップ入居者

- ・地域内外のクラフト系ショップ
- ・コワーキング入居者による出店
- ・地元のママさん起業家による出店

賃貸共同住宅で居住

- ・DIY関連のアーティスト(シングル)
- ・30代のDIY好きなカップル
- ・アクティブでDIY好きな高齢者

Step. 3 エリアのブランディング

地域資源の利活用

周辺の空き屋の利活用

- ・DIYのまちとしてのプロモーション
- ・地域外からのDIY好きが居住/出店

周辺の空き工場の利活用

- ・空き工場/設備を利用できるような
WEB上のプラットフォーム作成
- ・遊休・工場ストックを活用し、
新たなクラフト産業の創出

解体される空き家等の利活用

- ・家具等をファクトリーでリペアし販売等
- ・解体のワークショップを開催

29

CASE STUDY 01 : まちへの波及や関係性

空き家の利活用

- DIYの暮らしに興味を抱いた人が移住
- 職人や地域の人が共にDIYを行い、家を作
て居住する



遊休工場の利活用

- 遊休工場・設備の情報を一元化し、活用でき
るよう整理する
- 活用されていない遊休工場を子どもたちやク
リエーターがものづくりできる場所へ再生



空き家とファクトリーの連携

- 空き家に眠っている家具等を、一部ファクト
リーでストックし、区民がリペアして自宅に
持ち帰る仕組みづくり



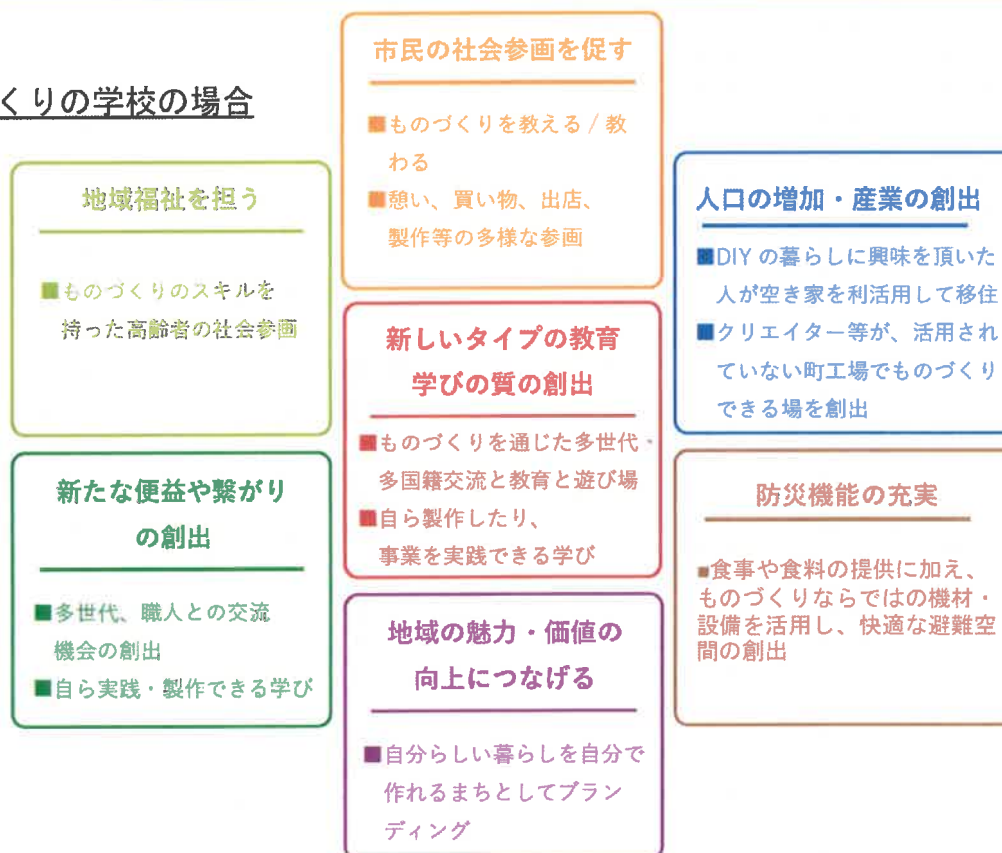
空き家

遊休工場

30

みんなの学校のまちへの影響

ものづくりの学校の場合



31

みんなの学校活用イメージ

CASE STUDY 03

CASE STUDY 03 : 活用コンセプト案



School of Agri-Welfare

未来の福祉を見据えた農業ビジネスの学校 ～高齢化社会における、健康関連産業の開拓～

33

CASE STUDY 03 : 活用コンセプト案



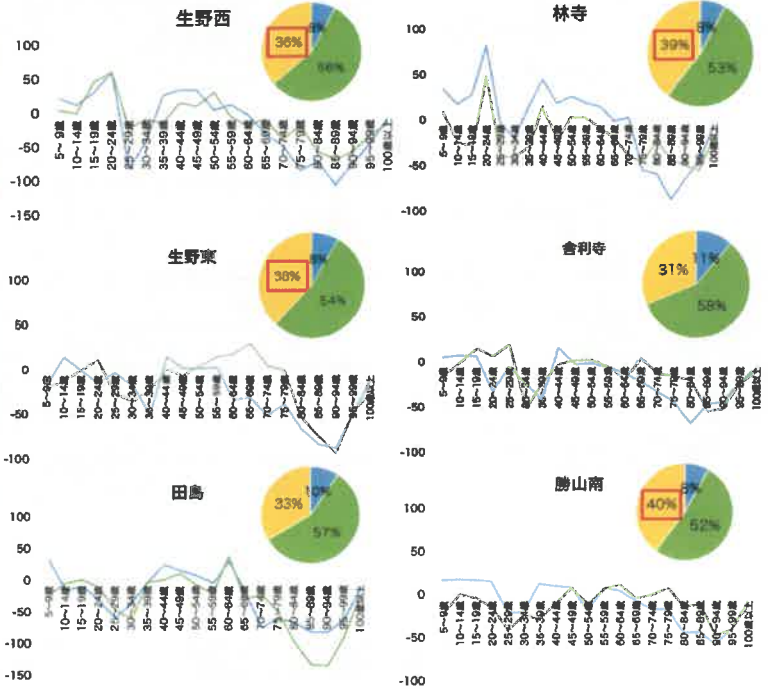
34

CASE STUDY 03 : エリアの特徴

周辺の人口コーホートと年齢区分の割合

人口コーホート — 2005年-2010年 — 2010年-2015年

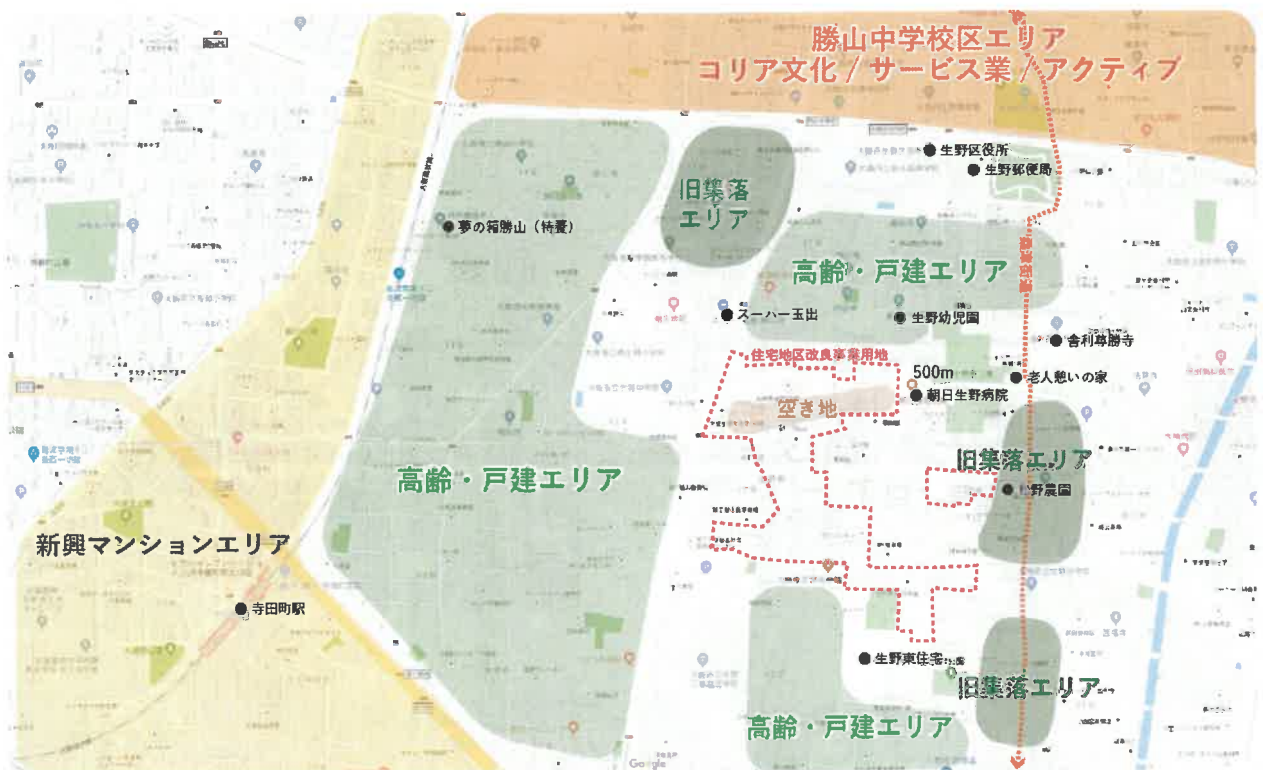
年齢3区分内グラフ割合 ■ 幼年人口 0-14 歳 ■ 生産年齢人口 15-64 歳 ■ 老年人口 65 歳以上 (出典 国勢調査)



生野区で最も高齢化の進むエリアである

35

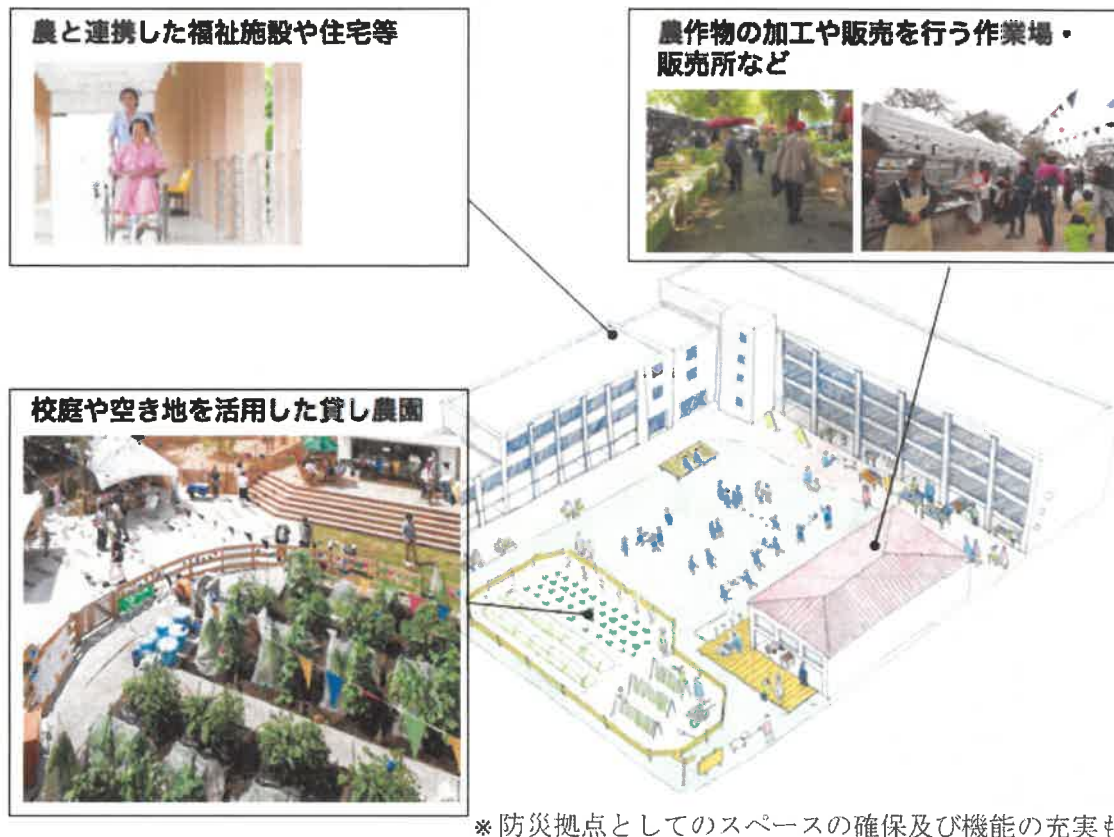
CASE STUDY 03 : エリアの特徴



旧集落に囲まれ、桑津街道沿道の歴史ある街並み・文化のあるエリア

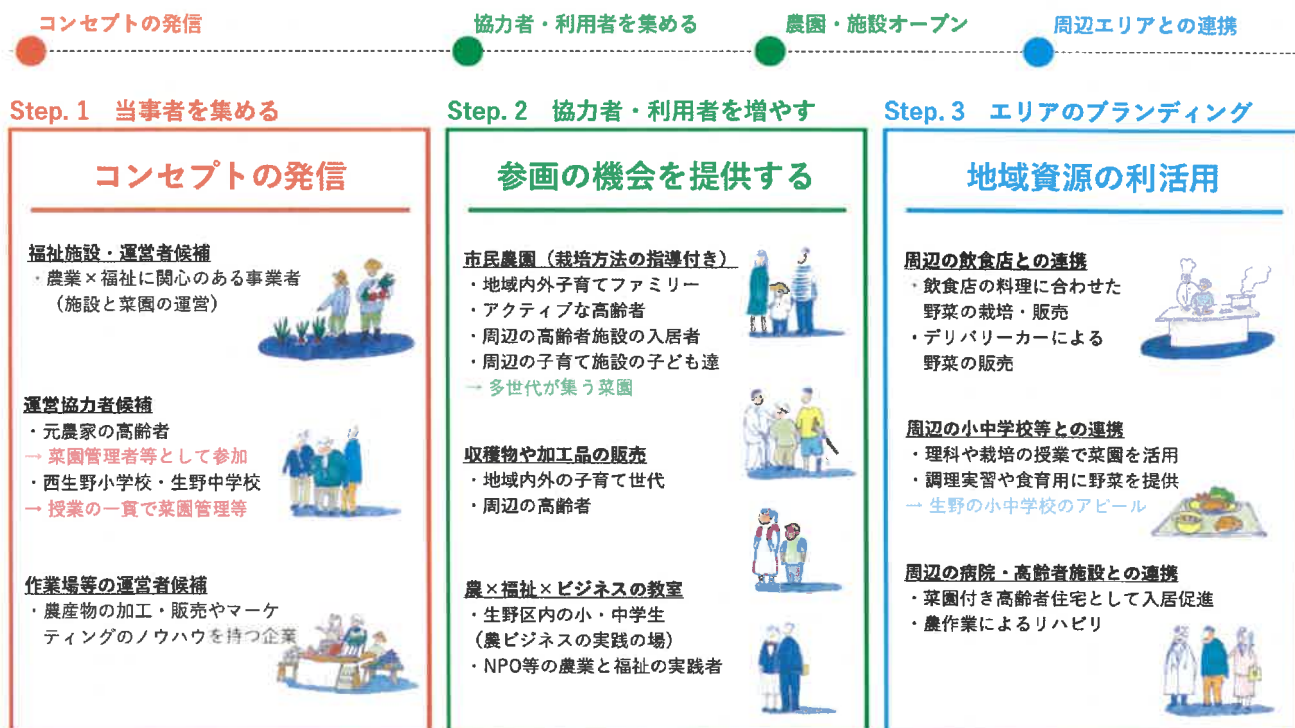
36

CASE STUDY 03：活用内容 未来の福祉を見据えた農業ビジネスの学校



37

CASE STUDY 03：活用ステップ案とターゲットイメージ

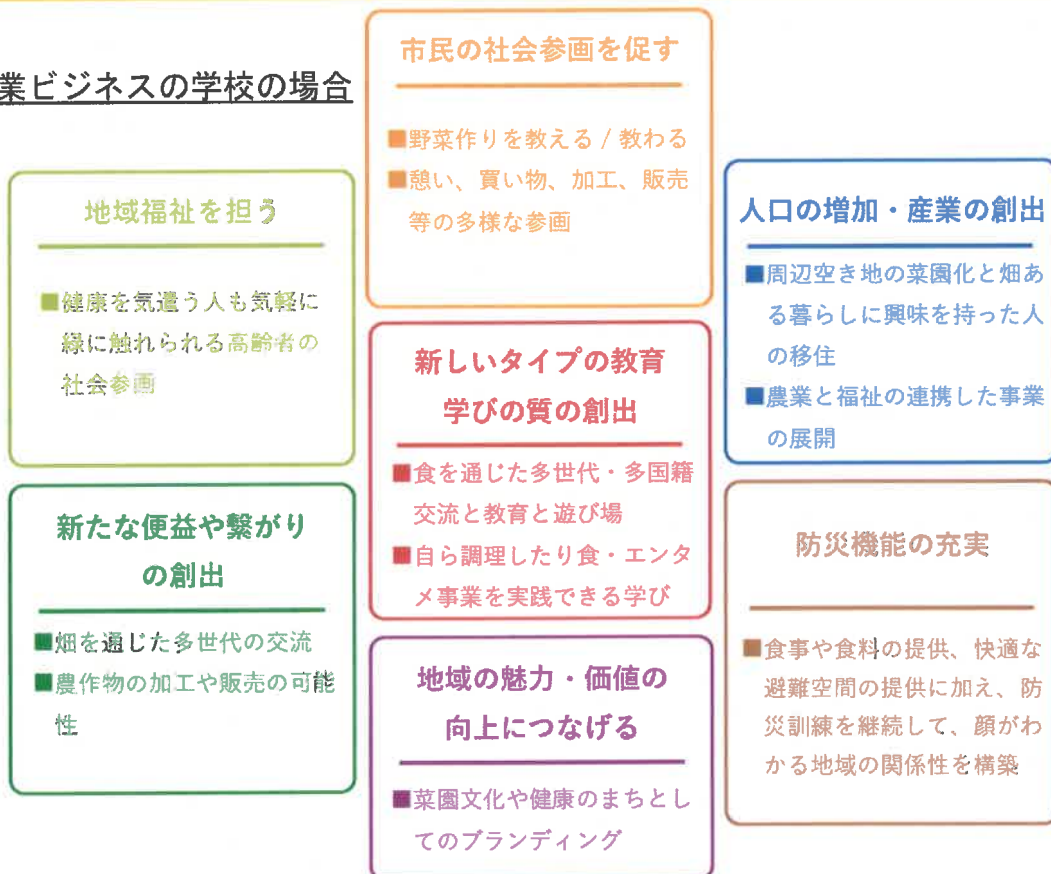


CASE STUDY 01 : まちへの波及や関係性



みんなの学校のまちへの影響

福祉の農業ビジネスの学校の場合



CASE STUDY 04

41

CASE STUDY 04：その他の活用案 生野区の強み



- ・多くのミュージシャンを輩出している、**音楽文化の歴史の蓄積**
- ・**コリア音楽文化**が根付いている

CASE STUDY 04：活用コンセプト案



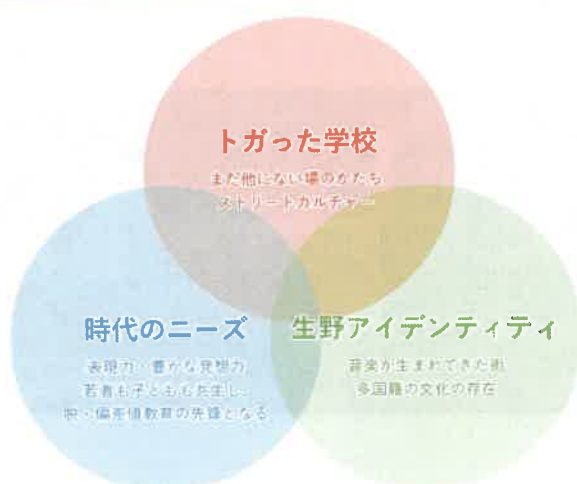
School of Performance

アーティスト達のパフォーマンスの学校

～生野にふさわしいストリートカルチャーをベースにした「創造と表現の学校」～

43

CASE STUDY 04：その他の活用案 スクールの方針（案）



施設イメージ：

学校・制作の場と住居の融合 / 表現を形にできるレコーディングスタジオ / パブリックなパフォーマンスホール

Step. 1 地域内外の当事者を集める

活用コンセプトの打ち出し

・プロ志望者（年齢制限なし）

→スタートはHip-Hopで少しずつ分野を広げる
→アジア等の海外の人材も招集し、人材交流を図る



Step. 2 協力者・利用者を増やす

参画の機会を提供する

地域内外でのコンサート

→学校や廃屋を利用したイベントなど

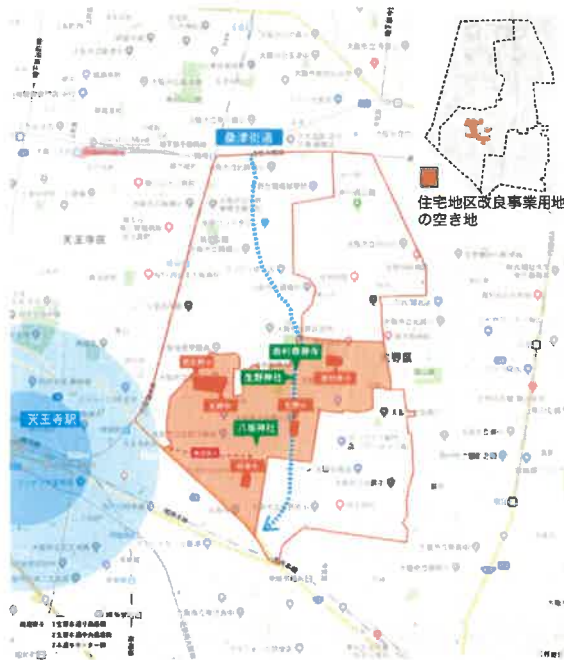
一般向け音楽教室

→生野区内の文化を伝える

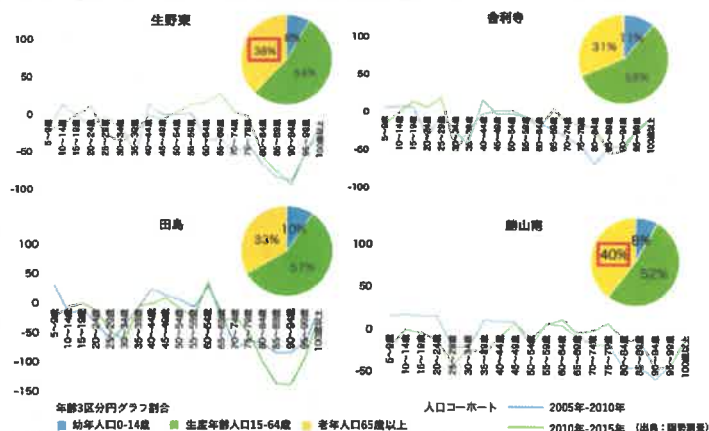


44

生野中学校区エリア



人口の流出入が少なく、区内で最も高齢化が進んでいる



生野中学校区エリア

街道集落 / 多世代 / 福祉

大阪市南部の最大ターミナルの天王寺に近接していながら静かで歴史の積み重なりがある

45

生野中学校区エリア

Strength / 強み・資源

01. 桑津街道沿いの歴史的な景観
02. 大阪市南部の最大ターミナル
天王寺駅から1.5kmの生活圈
03. 活用可能な空き家・空き地が多い

Weakness / 弱み

01. 生野区内で最も高齢化が進んでいる
02. 所々シャッターが下りている商店街
03. 防災性向上の検討が必要となる木造長屋群
04. かつての治安の悪さによる、
ネガティブイメージの定着

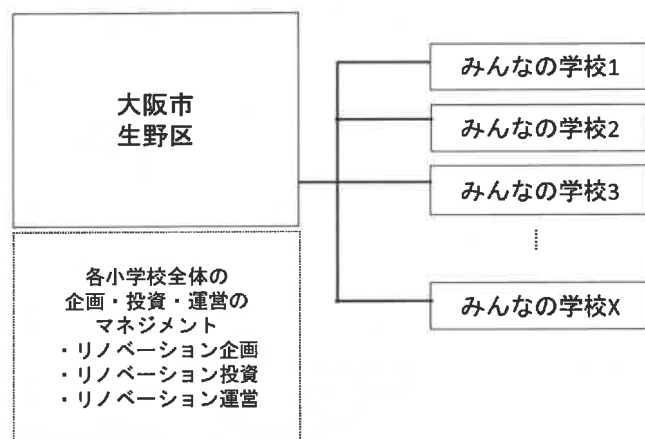
Opportunity / 機会

01. 大阪市南部の最大ターミナルである
天王寺駅周辺でのマンション開発による人口増
02. 日本全体での福祉ニーズの高まり

Threat / 脅威

01. 高齢化の一層の進行による、福祉課題の増加
02. 遊休地の放置によるイメージ悪化の可能性
03. 仕事不足やネガティブイメージ定着による人口減

従来型（直営型方式）

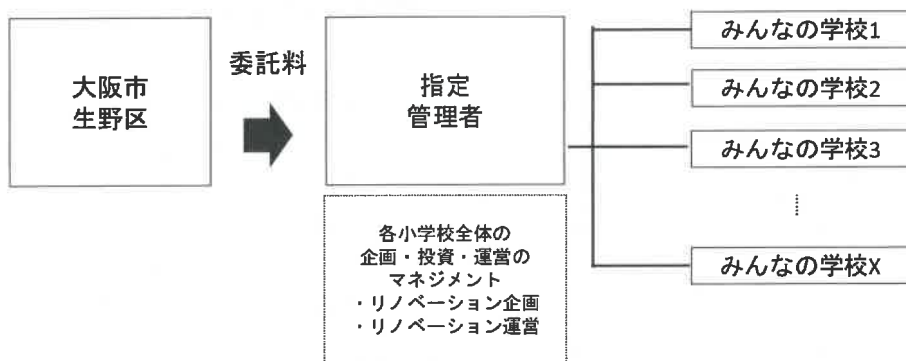


校舎を所有する市にて、直接整備・維持を行う方法

メリット	・行政目的に沿った整備・維持を行いやすい
デメリット	・施設運営のノウハウも少ないため、校舎の維持管理費を含め、事業拡大による収益確保は困難

47

従来型（指定管理者方式）



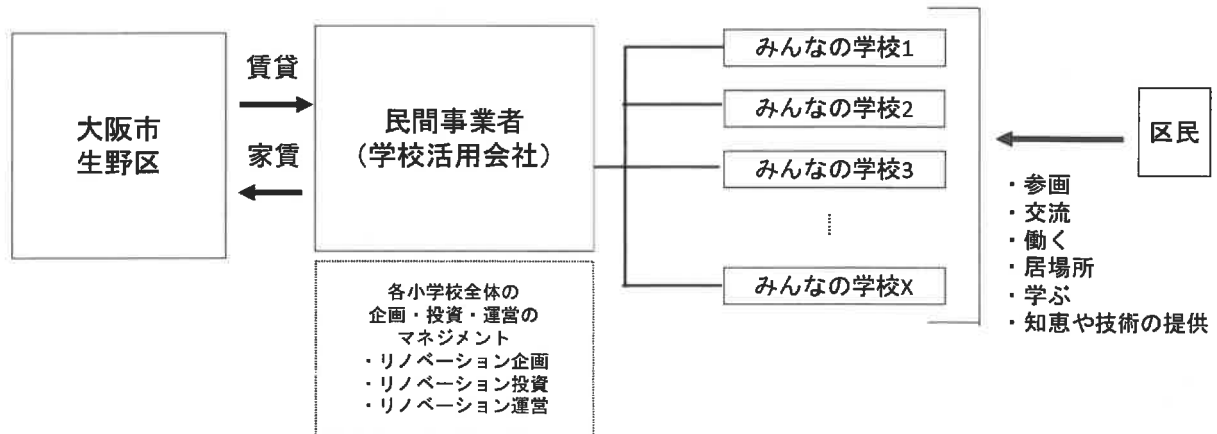
管理運営を民間事業者に委ねる方法

メリット	・民間事業者による運営のため、人件費が省かれるという点で運営コストが下げられる
デメリット	・業務の範囲や仕様などを詳細に協定しなければならず、弾力的な運営ができにくい面があり、民間の実力が十分に発揮できない実態がある ・委託料は、税で賄うことになる。税による持続可能な運営は不可能である ・場合によっては、公共サービスの質も上らず、本質的解決につながらない可能性がある ・指定期間があるため、長期的展望に立った継続的な取組や安定経営が困難の場合がある

48

運営スキーム案

未来型（稼ぐ公民連携方式）

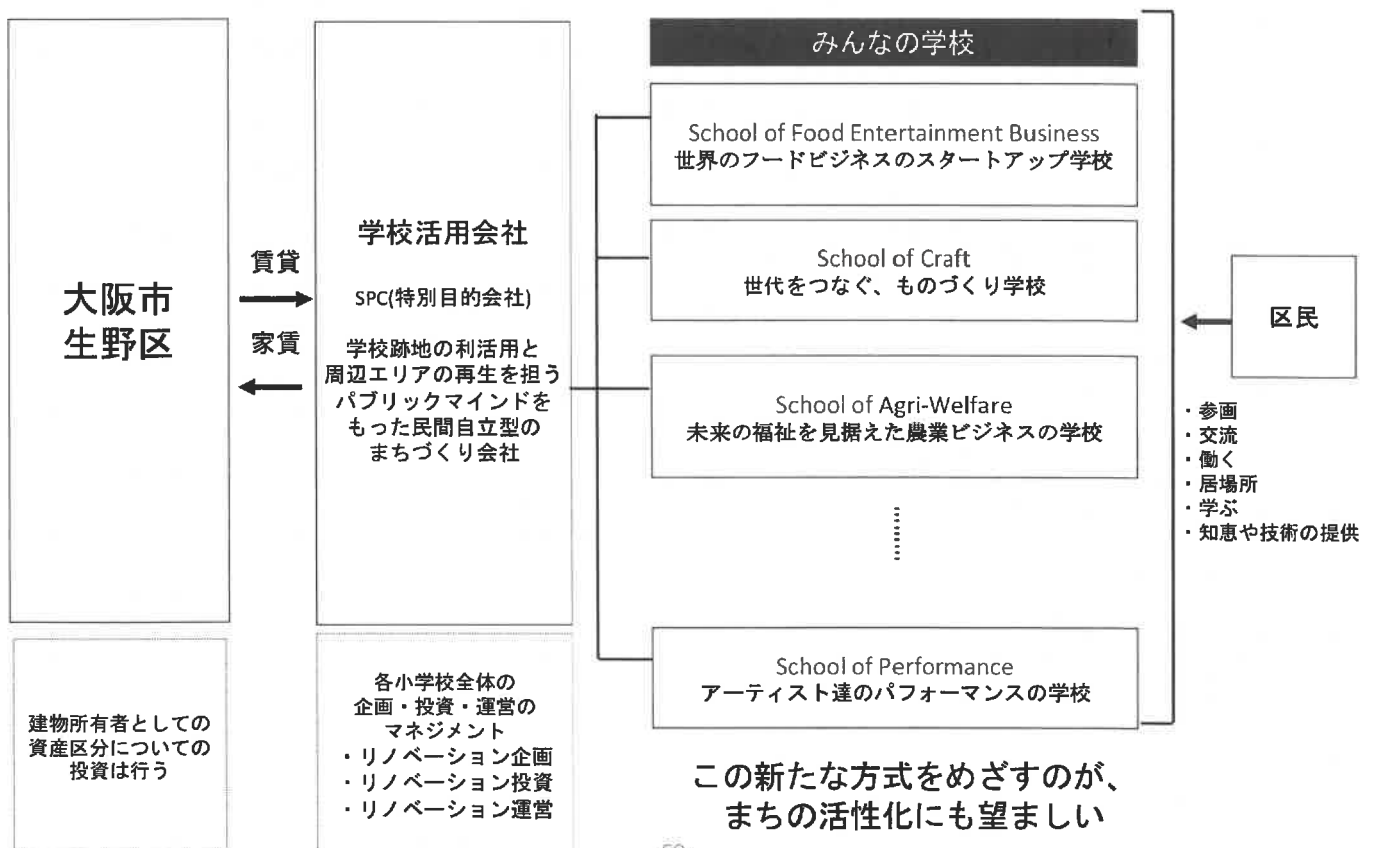


投資、運営、資金調達を一体的に民間事業者に委ねる方法

メリット	- 民間のリソース（財源、人材、知恵）を活かし、稼ぐ運営が期待できる。 - 公共施設のサービスの質を上げることができる。 - 結果、エリア価値の上昇にもつながり、固定資産税をあげることができる。
デメリット	施設規模が小さいと、費用対効果が出にくい可能性がある

49

運営スキーム案



50

「みんなの学校」 同士の連携イメージ

School of Food Entertainment



School of Agri-Welfare



生野野菜のレストラン

School of Craft



School of Food Entertainment



オリジナル・フードトラック



School of Performance



School of Food Entertainment



食・音楽の総合エンタメ

School of International Communication



School of Craft



生野ものづくりの担い手発掘

まちに多彩な産業や居場所が生まれることで、
それぞれが連携し、新たな価値を生み出す

51

「みんなの学校」における公的スペースの活用案

既に学校内で、行われている活動やスペース利用は、
可能な限り残す

●備蓄物資保管スペースの確保

現在の学校と変わらず、
災害時にも備蓄物資の提供ができるよう今ある機能を引き続き確保する。

●地域図書室 兼 自習室

みんなの図書室として地域の方や子育て世代に開放。
夕方は「いきいき」から帰ってきた子どもたちを保護者に受け渡せる場所へ。

●地域コミュニティスペース

「学校跡地検討会議」で、地域が活用したい教室等についての意見を聞いて決定。
(例えば、地域の会議、祭り、現在の生涯学習ルームや学校体育施設開放事業など)

福祉的な視点の「みんなの学校」

(いずれかの学校・校区での展開案)

●ソーシャルファーム*の機能

いずれかの学校、またはそれぞれの事業者の運営の中で、シングルマザーや若者、高齢者、障がい者等の就労支援となるサービスを取り入れる。どのような状況がある人でも、就労訓練や就労支援を受けながら社会で働ける環境を作る。

*「ソーシャルファーム」とは、一般就労（通常の企業）でもなく、福祉的就労（作業所）でもない、「第三の働く場」と解釈されている。どのような状況な人でも一般就労に近い形で働ける環境

●「仕事を学ぶ」職業訓練の機能

子どもたちが、生野区で働きたいと思えるきっかけとして、職業訓練の機能を持ったサービス環境をつくる。

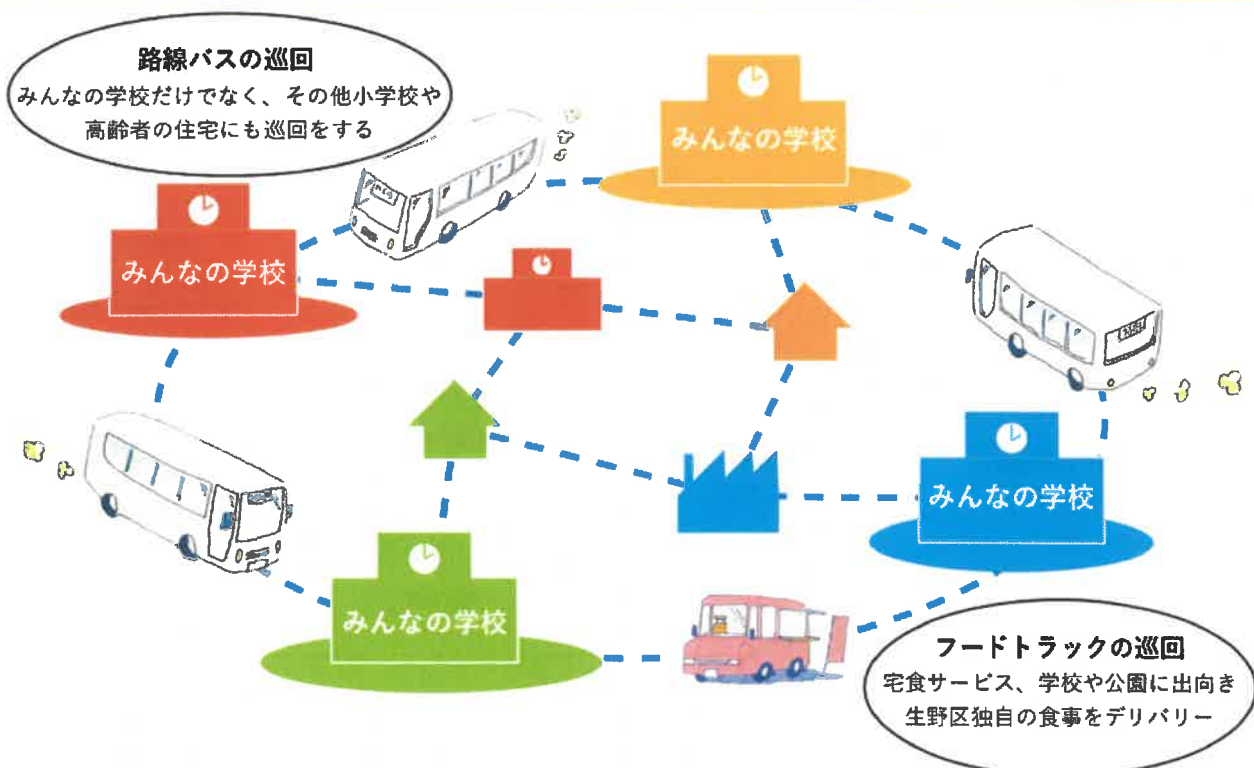
多様な大人に出会うことで、子どもたちは人生の幅を広げ職業選択の範囲を拡大する。またそれは、まちぐるみ教育に関わる大人の参加を促す根拠にもなる。それぞれの「みんなの学校」で仕事と人生に出会える、それが「まちぐるみ教育」が生野区の子どもたちに与える新たな学びの環境である。同時に、起業したい・働きたい若者や高齢者・子育て世代・外国の方などのキャリア形成に役立つ場を目指す。

●空き家を高齢者や低所得者の福祉的な住居支援やシェアハウスとして活用

校区の空き家を高齢者や低所得者の福祉的な住居支援やシェアハウスとして活用する。住む人たちが「みんなの学校」を拠点に地域でつながりを持ち、「みんなの学校」でも働ける機会を持つことで、孤立を防ぐような環境をつくる。

53

「みんなの学校」を拠点とした交通ネットワーク構築



みんなの学校を拠点とした交通ネットワークの構築

区域をまたいで、区民の方がみんなの学校を使えるように、まちを循環できる交通ルートを整備

災害の種類と時系列ごとの避難者数

災害規模	災害種類	災害名
大規模	地震	上町断層地震
大規模	水害	大和川
中規模	地震	—
中規模	水害	寝屋川・第二寝屋川・ 平野川・平野川分水路氾濫
	水害	内水氾濫
小規模	水害	昨年並みの 集中豪雨 (台風24号)

55

災害の種類と時系列ごとの対応案

	災害時	72時間	7日	3か月
住居	■ 快適性の高い避難空間 ◇ 教室内、校庭にテントなどを設置し、快適な避難空間の提供 ◇ トレーラーハウス等も活用 ◇ 空き賃貸住宅等の被災者提供に関する事業者との協定化	学校の避難所（教室等） ※校庭でのテント/トレーラーハウス		応急仮設住宅 ※避難所として空き賃貸住宅等の被災者提供
食料	■ 給食室、フードトラックや大型の冷蔵庫の食材を活用し温かい食事の提供 （フードトラックを災害時にも活用し、必要な場所へ食事を届ける）	備蓄食料	炊き出し お弁当の供給 ※給食室の活用 ※フードトラック	
物資等	■ 現在の備蓄物資の他、快適性の高い避難空間となるような物資（ダンボール等）の事前準備も必要と考えられる		備蓄物資	

56

「みんなの学校」での避難所機能（例）

日常的に利用できる学校でありながら、被災者の命と健康を守る避難所機能が確保された場とする

快適性の高い避難空間

教室内、校庭にテントなどを設置し、快適な避難空間の提供

トレーラーハウス等も活用



周辺への食事の提供

フードトラックを災害時にも活用し、必要な場所へ食事を届ける

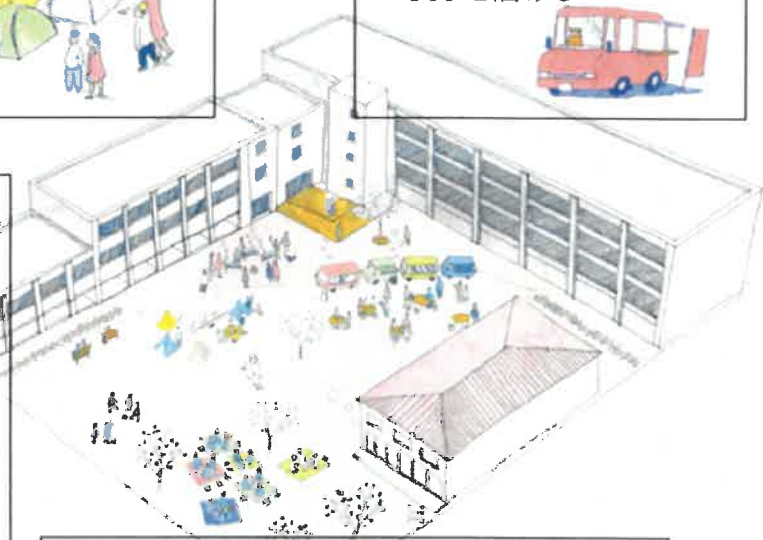


避難空間での食事

給食室、フードトラックや大型の冷蔵庫の食材を活用し、温かい食事の提供



空き賃貸住宅等の被災者提供に関する事業者との協定化



57

生野区の未来は、なつかしい未来



「みんなの学校」がまちの潜在力を発掘し
まち全体が学びの場となり、生野区独自の教育・産業・暮らし・福祉の場をつくる
みんなでつくり、みんなで学ぶ、
このまちだけの、未来の学校

58

